

令和7年度 上原小学校 海洋教育全体計画(案)

社会の要請

- ・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成。
- ・様々な情報を見極め、情報を再構築し、新たな価値につなげる力の育成。
- ・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成。

児童の実態

- ・活動的であり、何事にも積極的に取り組もうとしている。

本校の教育目標

豊かな自然と文化にめぐまれた「我が島(ばかすま)西表」に生まれ育ったことを誇りにし、人や地域と関わり合いながら、
○進んで学びよく考える子(知)
○明るく思いやりのある子(徳)
○体をきたえ、ねばり強くやりぬく子(体)
○自然と文化を大切に、郷土を愛する子(郷土愛)
 を学校教育の目標の柱とし、島の未来から、日本の未来に思いをいただき、持続可能な社会の創り手となる児童を育成する。

地域の特性

- ・島全体が国立公園に指定されており、イリオモテヤマネコなど、貴重な動植物・自然の宝庫である。
- ・海を仕事場とする保護者が多い。

本校の海洋教育目標

- 海に関わる体験活動を通して、ふるさとに誇りと愛着を持ち、持続可能な上原のまちづくりに関わっていこうとする意欲や態度を養う。
- 海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考え行動しようとする。
- 分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

結め海科

上原小 海洋教育の三大学習「魚まき集会」「ビーチクリーン」「防災学習」



結め海科の内容

学年		1・2年	3・4年	5・6年
テーマ		海となかよし 【海に親しむ】	海と人との関わり 【海を知る・守る】	海と山とのつながり 【海を守る・利用する】
各学年の目標		身近にある海について考え、海となかよくなるためにできることを考え、計画を立てて実行し、海の良さに気づき、親しみや愛着を感じることができる。	海と人(山)との関わりなどについて関心を持ちながら調べ学習や体験活動を行い、進んで関わろうとする意欲を持つことができる。	私たちの住む西表島の環境の現状と変化の様子を知り、海を守っていくための取り組みや、自分たちができることを考え提案することができる。
探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力	知識及び技能	知識 身近にある海に触れ、海の良さや変化に気付くことができる。	知識 地域に住む人々の思いや海辺周辺の生き物を理解することができる。	知識 西表島の現状と変化の様子を理解することができる。
		技能 身近にある海に触れ、今の自分のできることを考え、楽しんだり、生活したりしている。	技能 海と人(山)に関する体験活動から、今の自分にできることを考え、学校や家庭で進んで行っている。	技能 西表島の現状と変化の様子から、日常的に環境にいいことを行ったり、考えを発信したりして、課題と適切に関わる。
		探究的な学習のよさの理解 身近にある海に触れ、海の楽しさや海の危険を知り、探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。	探究的な学習のよさの理解 海と人(山)に関する体験活動から、今の西表の自然や生活は人々の工夫について探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。	探究的な学習のよさの理解 西表島の現状と変化の様子から、自分の意識や行動の変容は、西表島の課題について探求的に学んだ事による成果であることに気付いている。
	知識及び技能思考力・判断力・表現力等	課題の設定 身近にある海やその生き物の特徴や違いを見つけている。	課題の設定 海と人(山)に関する課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てることができる。	課題の設定 西表島の現状と変化の様子に目を向けて課題を見だし、解決の方法や手順を持って計画を立てている。
		情報の収集 遊びや遊びに使う物を工夫したり、自分でできることを考えたりしている。	情報の収集 人に聞いたり、図書館や ICT を活用して調べたりして、必要な情報をまとめることができる。	情報の収集 西表島の現状と変化の様子を捉えるために必要な情報について、手段を選択して、多様な方法で収集している。
		整理・分析 遊びや遊びに使う物を工夫したり、自分でできることを考えたりしている。	整理・分析 集めた情報を表やグラフ、思考ツール等を用いて分類・整理し、特徴を見つけることができる。	整理・分析 西表島の現状と変化の様子を捉えるために必要な情報について、手段を選択して、多様な方法で収集している。
		まとめ・表現 身近にある海と遊んだり、触れ合ったりした経験を伝えようとしている。	まとめ・表現 他教科等で培った表現力等を生かし、相手に応じて、分かりやすく表現することができる。	まとめ・表現 他教科等で培った表現力等を活用し、自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。
	学びに向かう力・人間性	主体性・協働性 身近にある海に親しみをもち、海となかよくなりたいという思いをもって、触れ合っている。	主体性・協働性 海と人(山)に関する体験活動を通して、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。	主体性・協働性 自分自身で設定した設定した多課題解決を通して、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。
		自己理解・他者理解 友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しもうとしている。	自己理解・他者理解 身近な人々と協力して探究的な活動を行おうとしている。	自己理解・他者理解 自分と異なる考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。
		将来展望・社会参画 身近にある海と親しみが増したことに自信や愛着をもち、大切にしようとしている。	将来展望・社会参画 海と人(山)に関する体験活動を行う中で、自分にできることを見付けようとする。	将来展望・社会参画 自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(生活・総合的な学習)(令和2年3月) 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(令和3年3月) 文部科学省内容系統表(笹川平和財団Grandデザイン)参照

教材化の工夫

- 地域教育資源の活用**
 - ・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりを持つため、校区や地域周辺の自然や人材・行事などの学習素材を調査整備する。
 - ・児童の学習活動に協力・支援できる人材を募り整理する。
- 教材化の視点**
 - ・各教科等横断し、地域のひと・もの・ことへ子どもの課題意識がつけられるように教材化する。
 - ・各教科等で得た知識や技能を総合的に発揮できるように教材化する。
 - ・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるよう教材化する。

問題解決的な学習における学習過程

- (1)「課題をつかむ」段階**
 - ・教科学習の発展として。
 - ・行事などへの主体的なかかわりから。
 - ・生活の中の気づきから。
 - ・様々な体験から。
- (2)「計画・追究する」段階**
 - ・どこで、どのような方法で調べるか。
 - ・だれに、どのようにして伝えるか。
- (3)「まとめ・表現する」段階**
 - ・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
 - ・まとめたことをもとに交流する。
 - ・活動をふり返り見直す。

指導方法・指導体制の工夫

- 学習形態の工夫**
 - ・学年の枠を超えた異学年での取り組み。
 - ・課題別グループによる取り組み。
- 指導体制の工夫**
 - ・地域人材の活用・近隣小学校との連携した交流学習。
- 学習環境の工夫**
 - ・調べ学習に対応できる学校図書館の充実。
 - ・町内や県外の学校との交流学習を推進するためのICTの整備・充実。
- 評価の工夫**
 - ・観点別学習状況を把握するための評価規程の設定。
 - ・ポートフォリオを活用した指導の充実・自己評価、相互評価